



「こんにちは 市長です」

8月10日号

知事選、参院選が終わってもうすぐ1カ月、太田の投票率とにかく悪かった。県平均を下回ること4ポイント、44.74%。参院選選挙区はともかく比例代表は155人が立候補、それに政党がからまって複雑、開票作業は深夜まで続いた。藤岡とか館林では翌朝の5時近くまでかかったという。投票率が悪かった言い訳に「選挙がつまらなかった」という気はないが勝ち負けがはっきりしない勝負は印象が薄い。参議院の存在感も薄い。衆議院の子会社みたいだからだ。

昔のことを言うと鬼が笑うかな、福田さん、中曽根さん、そして角田さんで参院選をやった。2人当選、白熱した選挙だったが観客席から見ていては面白かったに違いない。投票率は81.25%になった。かつて私も衆院選をやったことがある。平成5年、7人で当選者3人の(自分的には)激戦だった。私は負けた。けど、あの時の投票率は73.54%。中選挙区制度の時の投票率はずっと70%を維持してきた。小選挙区になってからの投票率は褒められた結果にはない。衆院選は落選した人も当選できるという奇怪な選挙。「負けても勝ち」という。世の道理は負けは負けではないかと思うのだが、政治の世界はチト違うのか。

18・19歳の投票率は全国平均で31.33%、ちなみに太田第18投票所は22.39%だった。他の投票所もおそらく右にならって実に低かった?部活や進学、就職の方が絶対的に優先しますよ。また、クラスの半分は選挙権を持たない。だから選挙はクラス全員の共通話題にもならない。

投票率が低かったことはすでに誰もが忘れてしまっている。やっぱり中選挙区に戻して「当選は選挙に勝った人だけ」にすること、18才という年齢だけでなく、高校3年生になったらみんな投票権を持つというのはどうだろうか。